

【解説】

この回のメインは「生きがい」である。しかし「何のために（誰のために）自分は生きているのか」を考えることは、「アイデンティティの確立」と密接につながっているゆえ、まだアイデンティティを確立していない高校生には、同じく「生きがい」を問われても十分には答えられない場面が多いかも知れない。

しかし、深い挫折の淵にあっても希望をもち続けることで壁を乗り越えることができたという話は少なくない。例えば東日本大震災の直後にフランクルの『夜と霧』がよく売れたという話は何を物語っているのだろうか。内村鑑三の『後世への最大遺物』には原稿を焼失したカーライルが本を書き直したエピソードが出てくる。なぜ彼は原稿を焼かれても再起できたのだろうか。挫折を乗り越える人々は、「自分は何のために生きているのか」明確な答えをもっているのではないか。

高校生にもそれと同じくらいの意識をもって自分の進路を考えてほしい。自分は何のために（誰のために）生きようとしているのか。それを考えながら生きる先に、本当の「生きがい」や「アイデンティティの確立」がある。

※なお私の授業では、フランクルを紹介するついでに、ナチスドイツについて概要を説明し、アウシュビッツ収容所の写真集を教室で回覧するなどしている。ここでナチスドイツについて知ることは、次の<06>で扱う権威主義的パーソナリティを考える際の導入になる。

ウェブの紹介

アウシュビッツ平和博物館 <http://www.am-j.or.jp/index2.htm>

本の紹介

上田紀行『生きる意味』岩波新書

写真集『アウシュビッツ収容所』グリーンピース出版会

フランクル『夜と霧』みすず書房

ヴァイツゼッカー『荒れ野の40年』岩波ブックレット

神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房

宮田光雄『きみたちと現代』岩波ジュニア新書

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫